

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市岩切児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3 指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 26,791 人 (前年度比 72.3%) 令和元年度 37,048人 平成30年度 34,977人 平成29年度 35,840人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 70,975千円 (65,791千円) ・ その他市が負担した費用 千円 (千円) 《収入》 ・ 使用料収入 千円 (千円) ・ その他収入 千円 (千円)
	()は前年度決算額
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、Facebookの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小している乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
<p>「児童館の特徴を活かしながら子ども達と安心安全に過ごすためにはどうすればよいか」をスタッフ皆で考え工夫し運営を行ってきた</p> <p>○児童健全育成事業 コロナ禍の中でどうやって居場所をつくっていくか、スタッフで考え、時には全国の児童館職員のアイディアや感染拡大地域での工夫を取り入れながらできることを積み重ねてきた</p> <p>○子育て家庭支援事業 児童民生委員さんやいわきり子育てネットワークのメンバーと情報交換をし、集まらないからこそ、再開した時のためにも情報発信をしようとして「IKoNet」というリーフレットを岩切のママさんたちとつくり上げた。また、児童館での密を避けるために特別に事業を行うのではなく、来館したら好きな遊びや体験ができるよう月毎のデイリープログラムを計画し実施した</p> <p>○地域交流推進事業 「集まらないから中止する」ではなく、いまだからこそできることを工夫し連携する必要があると家庭教育地域交流会の会議で話し合い、『はじめましてのコロナ時代～家庭教育地域交流会の記録～』という冊子を年度末に発行した。子どもの居場所を守る地域の方々と、それぞれの機関が果たしてきた役割をお互い再認識し一緒に活動できたことは児童館としても大きな力となった。</p> <p>○放課後児童クラブ事業 密にならずどう感染リスクを下げて、生活の場を提供していくかを常に考えた一年だった あたりまえだった生活の流れを本当に必要か立ち止まり、考え、再構築したところ、自主性が育ち余裕が生まれコロナ対策による副産物が多くもらえた 休校中の小学校利用では学校の先生に児童クラブの様子など直接見て頂く機会ができ、学校との連携もスムーズに行えたと感じている</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、母親向けのサロンや育児講座、企画行事の「クリスマスマーケット」など開催し、母親がリフレッシュできる場や親子遊びの場を設けている。自由来館の乳幼児親子向けには、月ごとにテーマを決めて運動遊びや工作を楽しむ時間を設け育児相談も気軽に行っている。また、コロナ禍で児童館に来館できない時期に「おうちじどうかん」と称した、家庭で作って遊べるおもちゃのキットを用意し、近所のスーパーに置いて活用してもらうなど行事ができない中、親子で遊べるものを職員が工夫し提供し地域の中でたくさんの親子に活用されている。地域で子どもを見守り、子どもと子育て家庭を支える環境作りに努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、コロナ禍の中、子どもの不安を解消し、子どもの育ちを支援していくために五感を開放する遊びや全国のズーム研修で学んだ遊びなど職員間で検討している。その中で「遊びンピック」や忍者祭り、こま大会など開催し実際の現場で取り組んできている。特に生活のスケジュールや遊びの内容など自分で決めていくように支援して行く中でルールを守って待つことができたり日常の中で工夫して遊ぶなど自主性や社会性の育ちを育てている。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課